

継続できる自治会について考える会

～ 自治会を支援する会・西須磨の
活動事例を通して ～

2022年3月16日

自治会を支援する会・西須磨
会長 藤波 進

はじめに

(1) 本日のお話の流れ

A 1

はじめに

●●町●丁目の実情

A 2

支援の流れ(フェーズごと)の説明

特にアンケートに関する詳細説明

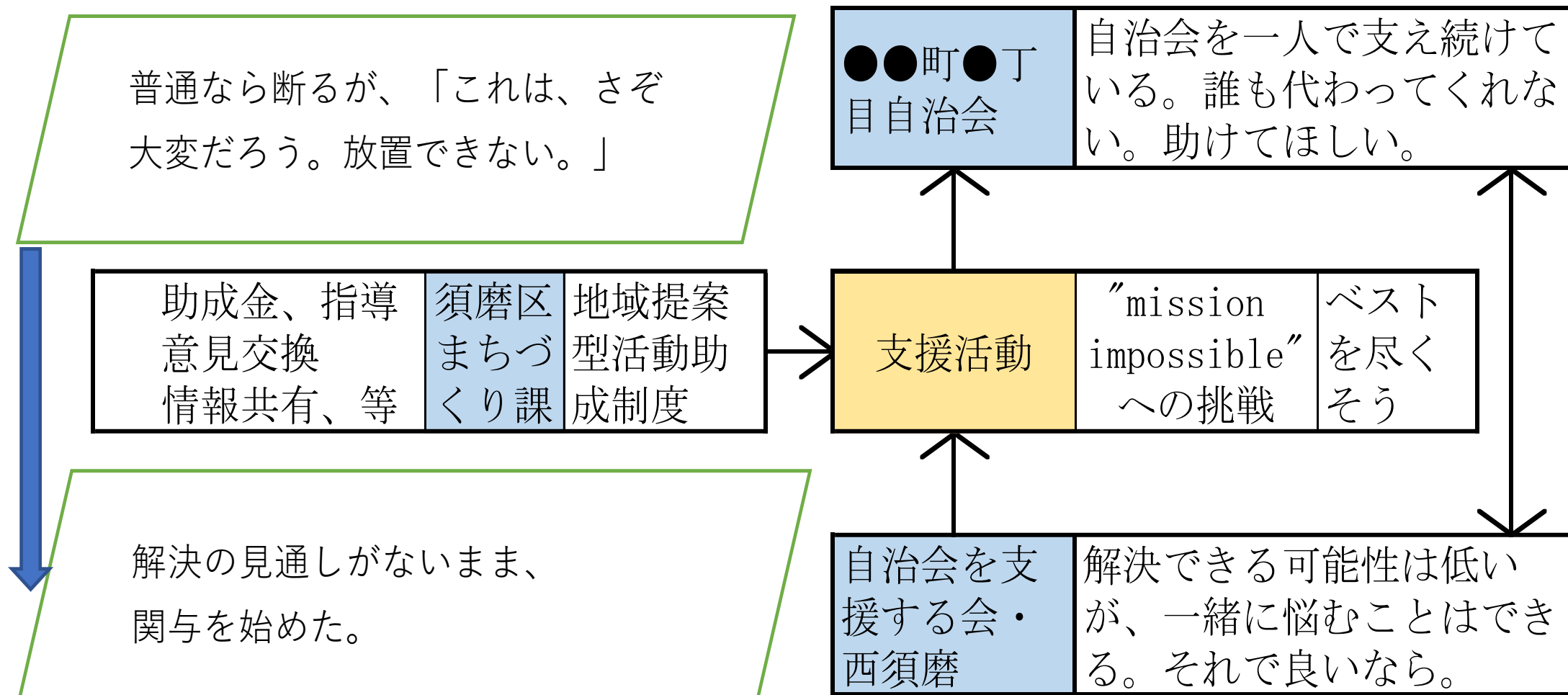
B

自治会役員候補者は何処にいるか

自治会を支援する会・西須磨の考え方

はじめに

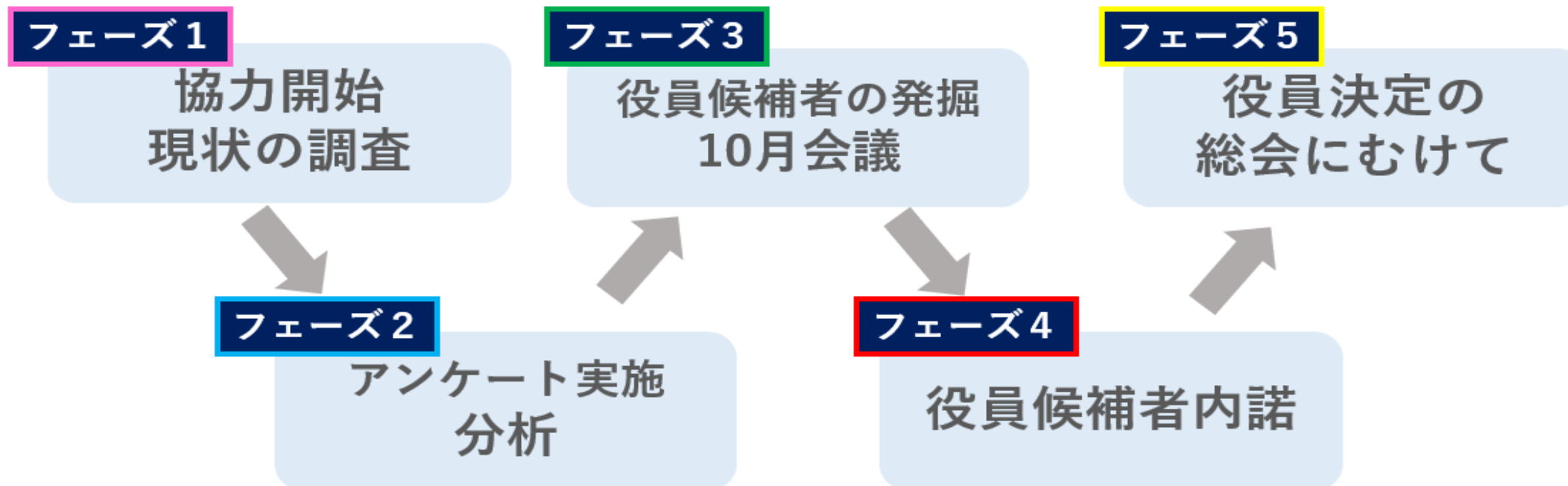
(2) 全体枠組み



はじめに

(3) 支援全体の流れ

2020年		2021年												2022年		
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
フェーズ1					フェーズ2				フェーズ3			フェーズ4			フェーズ5	



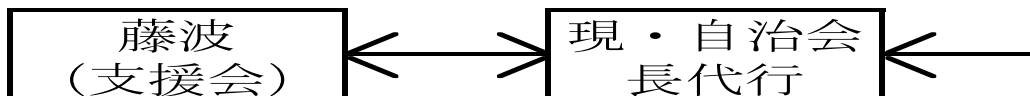
はじめに

(4) 現在の進行状況

現在、以下の枠組みで、総会開催に向けて準備中

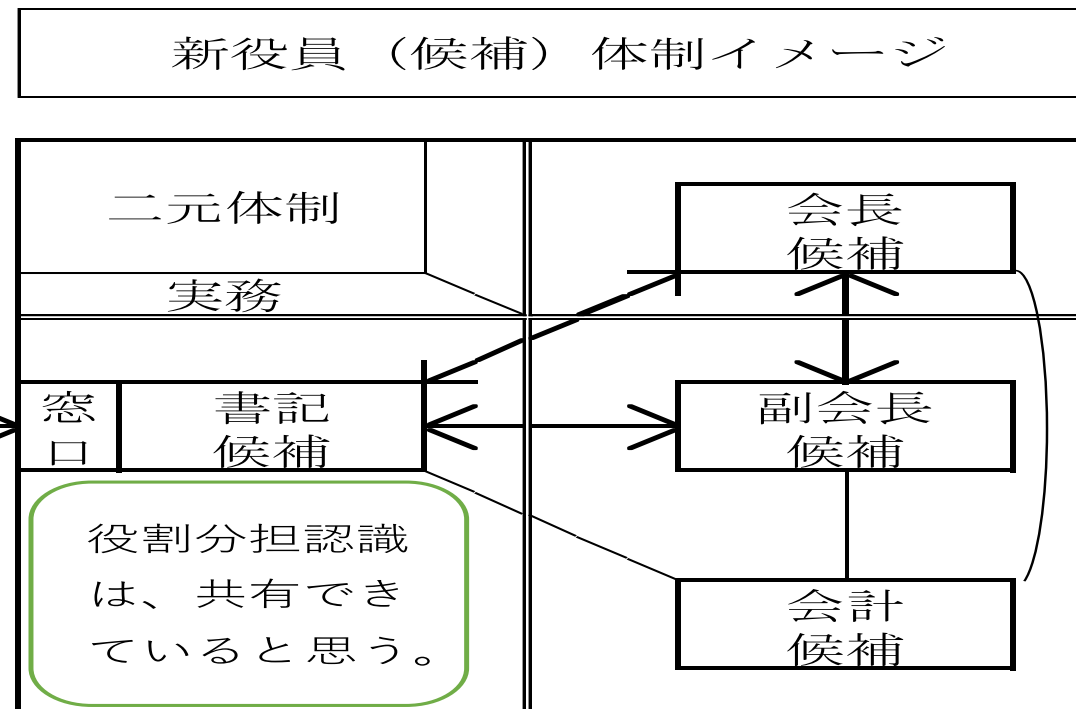
方針

- ・ 「自治」「自主性」の尊重
(押し付けない)
- ・ 直接働きかけの自重
- ・ 必要な情報の提供
- ・ 相談されたら、応じる
- ・ 要請されたら、協力する
- ・ 懸案を伝える
- ・ 成り行きを見守る



気になっていること (懸案)

- ・ 総会の開催 (直近)
- ・ 規約の変更 (直近)
- ・ 世話役制度の改革 (次年度?)
- ・ 有償化の検討 (次年度?)
- ・ 会費の値下げ
- ・ 会報の発行 (後)
- ・ 次期候補の発掘と育成 (後)



人格、見識、理解力、使命感、能力を兼ね備えたメンバーになっている。

はじめに (5) 自己紹介

藤波 進 f-susumu@mbn.nifty.com

2018年度	関守町2丁目自治会	↓自治会のあり方	「ようこそ！ 関守町2丁目へ」編集委員会
2019年度	会 会長		「くらしやすいまち委員会」
2020年度	自治会を支援する会	活動：「自治会を支援するとともにその在り方を考える活動」。「地域提案型活動助成制度」活用。	
2021年度	会・西須磨 会長		

自治会を支援する会・西須磨 <https://24suma.net/>
須磨区地域提案型活動助成を受けて活動

自治会支援の在り方を検討するとともに、要請あるいは必要に応じて支援を行う。
業務のマニュアル化、各種資料の作成、ホームページを活用した情報の共有・伝達システムの構築など

ホームページの簡単な説明

本日の出席者
藤波 進

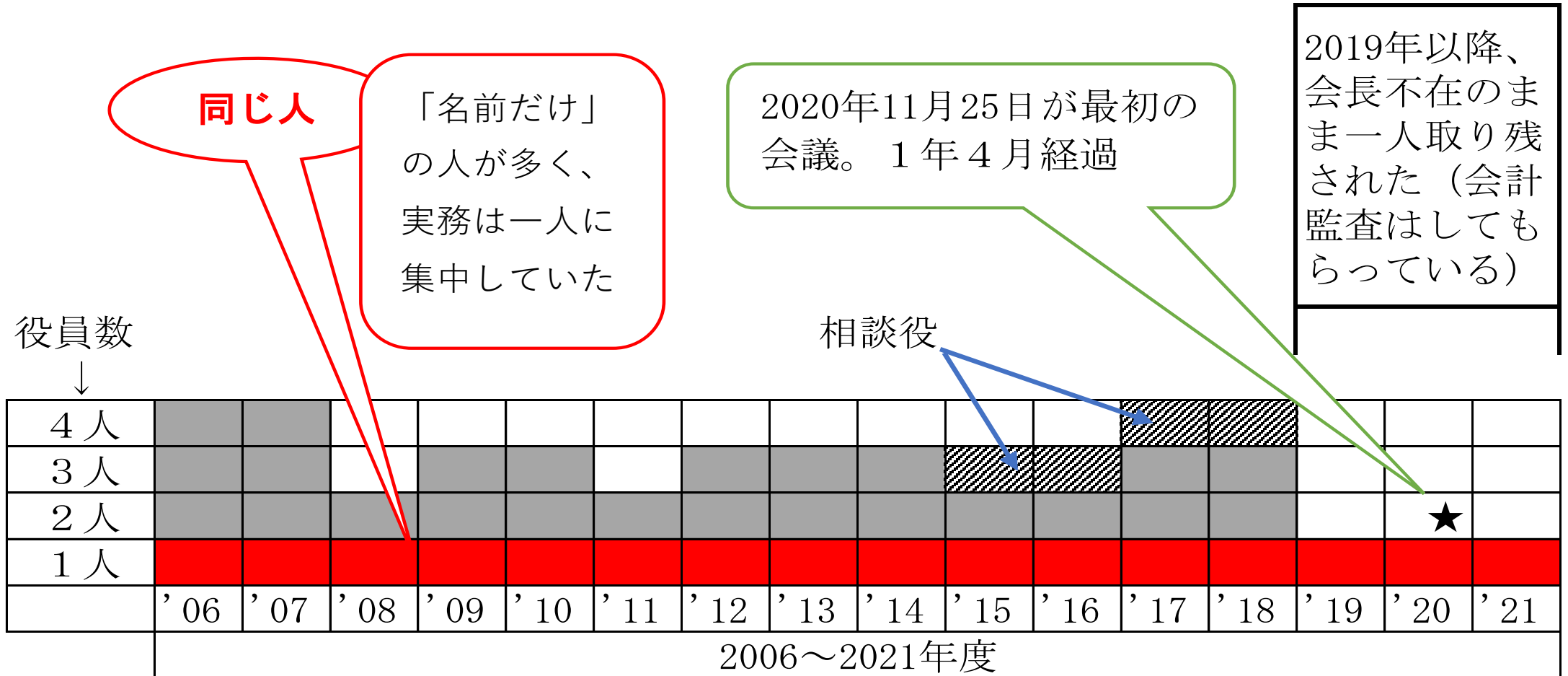
自治会を支援する会・西須磨 会長

自治会を支援する会・西須磨 副会長

●●町●丁目自治会 副会長候補



●●町●●丁目の実情 (1) 役員数(会計監査を除く)



●●町●●丁目の実情

(2) スタート時の自治会の状況

自治会役員を一人残し、どこかに行ってしまった
誰も、自治会役員を引き受けてくれない

自治会規約はあるが、無視されている

総会は、開いたことがない
会計報告、会計監査はしている

8つあった班は、世話役のなり手がいないため、5班に集約された
世話役は、少数の人が輪番で担当している
世話役は、なんとか存続している（先行きは危うい）

会報は、発行していない
行事は、何もしていない

●●町●●丁目の実情 (3) 地図

- 道路沿いには商店が多い。商店街の半分を含む。
- 集合住宅が多い。道路から内側に入ると、戸建ての家がある。

略

●●町●●丁目の実情 (4) 写真

略	駅前交差点。 お店が多い。	大型マンションがある。	略
---	------------------	-------------	---

略	真ん中を東西に細い路地が通る。	一戸建て住宅やマンションが混在する。	略
---	-----------------	--------------------	---

●●町●●丁目の実情

(5) 自治会の構成員(世帯数)

	一戸建て	集合住宅	事業所	計	会費
ポスティング会社のデータ(参考)	43	202	61		自治会加入率
数え上げると	43	242	52	337	240 71%
構成比率	13%	72%	15%	100%	
	高齢化が進んでいる	自治会に無関心	「法人会員」制度なし	一戸建てと集合住宅合わせて285世帯。人口は363人。→ 一世帯当たり1.27人(86%が単独?) (令和2年 全国1世帯当たり人員は2.21人)	
	<ul style="list-style-type: none"> 以前は、そこに住んで商売。 今は、通いで商売。 (他地域の人が店舗を賃貸・購入) 		職住分離が進んでいる		
			事業所の事務所もある		
自治会役員輩出の可能性	当てにできない	当てにならない	当てにならない		
		一人ずつ、出して欲しいが...			

●●町●●丁目の実情

(6) 自治会住民の年齢構成(a)

人口（5歳階級）

2020年11月末日

年齢	00-04	05-09	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	計
人	8	7	8	10	22	21	26	27	21	35	34	27	17	28	32	18	13	5	4	363
人	23			240									100							363
割合	6.3%			66.1%									27.5%							100%
	年少人口			生産年齢人口									老年人口							
須磨区本区	12.5%			59.0%									28.6%							100%
須磨区	11.4%			56.6%									32.0%							100%
神戸市	12.0%			59.9%									28.0%							100%
日本	12.0%			59.1%									28.9%							2020年

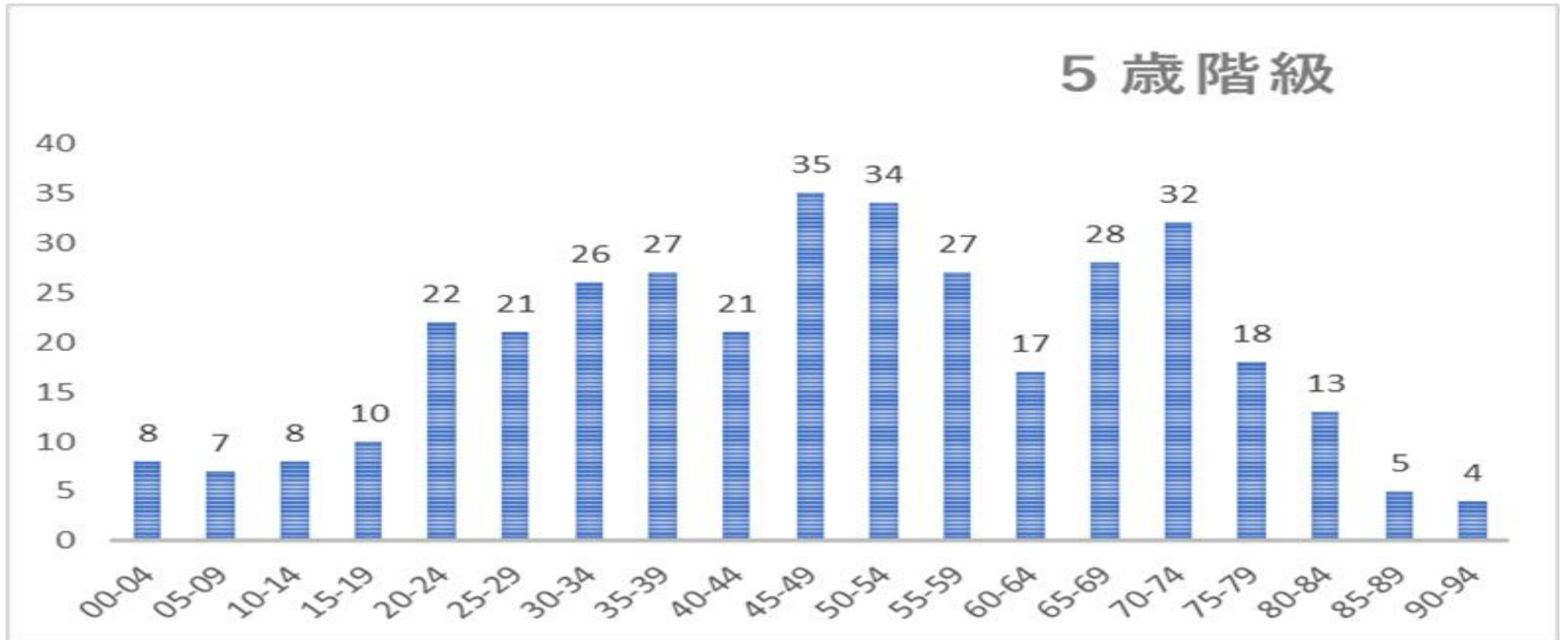
<https://www.city.kobe.lg.jp/a89138/shise/toke/toukei/jinkou/juukijinkou.html>

神戸市のデータ

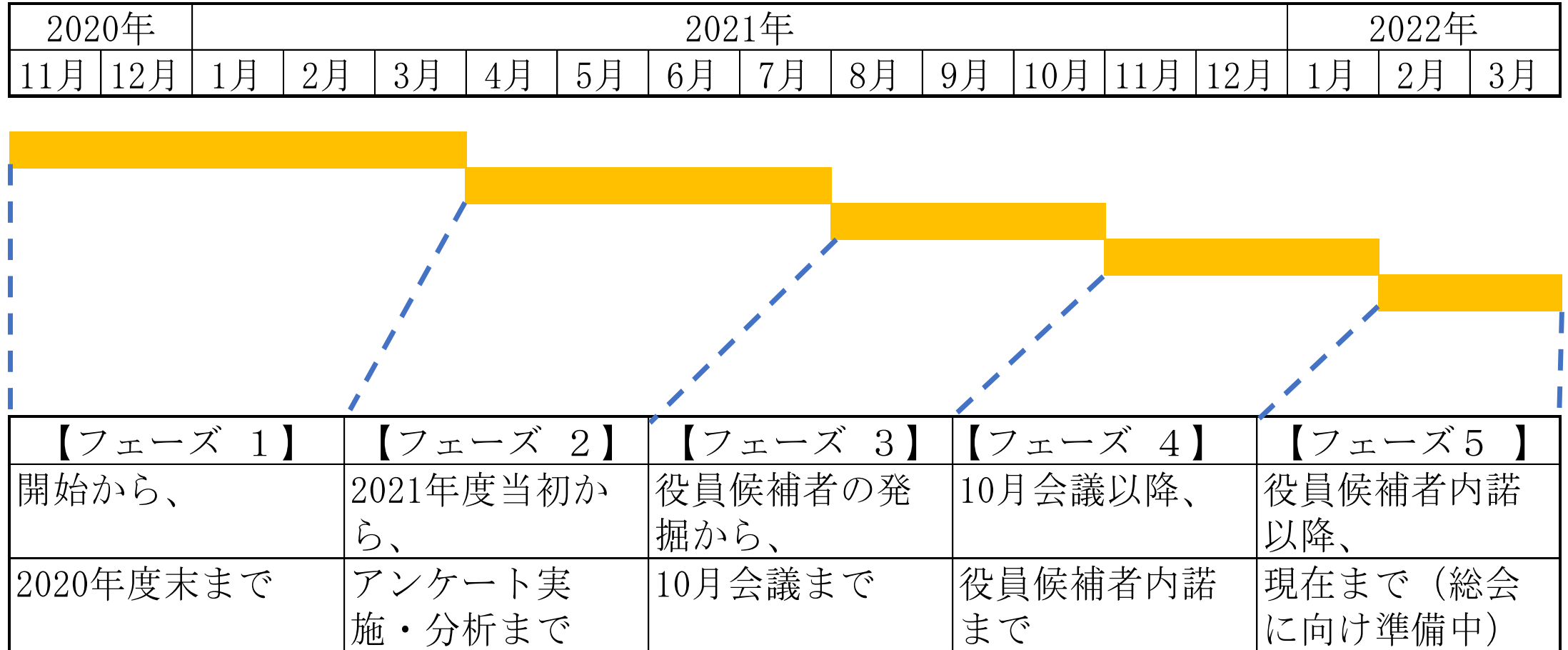
<https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001000000/7>

日本のデータ

●●町●●丁目の実情 (7) 自治会住民の年齢構成(b)



【フェーズ】の説明 ～ 17か月で5つの【フェーズ】



フェーズごとに、課題が違ふ

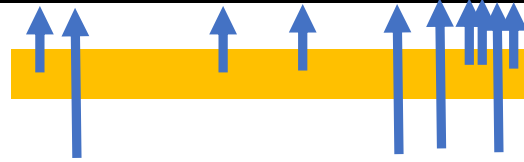
【フェーズ 1】 開始から、2020年度末まで

2020年		2021年												2022年		
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
																

1. 1. 困っている●●町●丁目自治会を支援できないかという話があった
1. 2. 2020年11月25日 3者(*)打ち合わせ
(*) ●●町●丁目自治会 会長代行（以後、「会長代行」）、
自治会を支援する会・西須磨から2人
1. 3. 2021年1月20日 3人の世話役も交えて打ち合わせ
「解決は難しく、うまくできないかもしれないが、一緒に悩むことはできる。それで良ければ協力します」→「協力してください」
1. 4. ●●町●丁目の現状を調査した
1. 5. 藤波が検討を進めたが、会長代行から「年度末で忙しくてゆっくり考えられない」との申し出があり、その後検討を詰めないまま年度末を迎えた
1. 6. 後継者が見つかっていないので、2021年度も会長代行が引き続き、役員を務めることになった

【フェーズ 2】 2021年度当初から、アンケート実施・分析まで

2020年		2021年												2022年		
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



小さな矢印は、打合せ日
(下に説明がない)

2. 1. 4月13日に3人の新世話役も含めて、打ち合わせをした
2. 2. [以後、核になる3人（前出）が大きな方針を決め、提案し、それに対して3人の新世話役が一般会員の視点で意見を述べ、修正していくというパターンで検討を重ねた（6人による検討体制）
2. 3. 検討を重ねるうち「住民が自治会を必要としているかも分からない。アンケートから始めてはどうか」という提案が出て、採用することになった
2. 4. 7月1日の日付で、アンケート依頼を全戸配布した。締め切りは、7月10日に設定した
2. 5. 7月23日付発行の「自治会だより」に結果を掲載して全戸に配布した。また、記名入りで提出していただいた方には、詳細版を配布した

【フェーズ3】 役員候補者の発掘から、10月会議まで

2020年		2021年												2022年		
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

小さな矢印は、打合せ日（下に説明がない）



3. 1. アンケートで「役員になることを検討してもよい」（←『有力候補者』）「役員にはなれないが協力はする」と答えた方、及び、現・自治会長代行の推薦の方（←『有力候補者になる可能性がありそうな人』）を対象にして、会議を開催することにした
3. 2. 予備会議と本会議の2段階で開催することにした
3. 3. 10月16日 「今後の自治会のあり方に関する詳細説明・相談会」を開催した
 対象：『有力候補者』
 目的：現在の困っている状態、自治会の必要性など、自治会に関する理解を深める
 このまま残り、役員候補者になって欲しいということは伝えたが、「役員候補になってください」と詰めなかった。…次期尚早と思ったので
 結果：後に、4人とも役員候補者になることを内諾してくれた
3. 4. 10月21日 「アンケートをもとに今後の自治会を考える会」を開催した
 対象：『有力候補者になる可能性がありそうな人』。（10月16日参加者も含む）
 目的：役員になる可能性のある人を新たに見出す。意識を変えてもらう
 結果：うまくいかなかった。意識の低さを改めて認識した

【フェーズ 4】 10月会議以降、役員候補者内諾まで

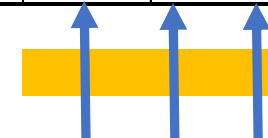
2020年		2021年											2022年			
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
												↑ ↑ ↑ ↑ ↑				
小さな矢印は、打合せ日（下に説明がない）																

- ポイント** (留意したこと)
- (1) 「自治会役員になることを検討してもよい」から、どうすれば「自治会役員になります」に変わってもらえるか。
 → 自治会の重要性の再認識（これは、ある）。自治会役員を引き受けても、**なんとかできそうだという感触**（重要！）。自治会に関する知識（不安解消のために）
 - (2) どうすれば、この中の誰かが、会長を引き受けてくれるか。
 → 「**二元体制**」：会長は、顔。役所から来た書類を「お願いします」とわたせばよい（会長でない人が、処理する。会長に負担を集中させない）
 - (3) こだわり = 「あてがわれた会長」ではだめ。「自分たちがお願いしていただいた会長」でなければならない
 → 誰が会長になるかを指名しない。**互選**していただく
4. 1. 2022年1月27日、役員候補4人に集まってもらって、自治会役員の大変さ（一般論）と ●●町●丁目自治会の現状（実は、それほど多くのことはしていない）の説明をした
 4. 2. また、会長・副会長・会計・書記の役割分担について提案した（会長負担低減＝会長は自治会の顔であり、実務はその他の方が中心になって推進する）
 4. 3. **会長・副会長・会計・書記の各々に誰が就任するか、内諾をえた**

【フェーズ 5】

役員候補者内諾以降、現在まで(総会において準備中)

2020年		2021年												2022年		
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



総会を開催しないと、新役員就任の正当性を得られない
今の自治会規約は非現実的。

まず、**規約を改定**し、それに則り新役員を決めるという手続きが必要

新役員候補（書記）が会議資料を作成、それをもとに皆が議論し、新役員候補（書記）が修正する。自治会を支援する会・西須磨は、会議に出席して、意見を述べるだけ。

新役員を中心にして、検討が進み始めた（=既に【自治】会になった）。

※ 支援することによって「依存体質」にさせてはいけない

- 5.1. 2月17日、総会開催・規約改定に向けての検討、資料作成会議（その1）
- 5.2. 3月3日、総会開催・規約改定に向けての検討、資料作成会議（その2）
- 5.3. 3月24日（予定）総会開催・規約改定に向けての検討、資料作成会議（その3）

アンケート

(1) 2022年度からの自治会活動停止に備えて

「自治会役員の担い手が見つからないので、2022年度から●●町●丁目の自治会活動を停止せざるをえない状況になっています。」との前提のもと、（2022年度からの自治会活動停止に備えて）の「自治会員全世帯への緊急アンケート」として、回答を要請した。

現在、役員は庶務会計担当のひとりのをのぞいて、他は欠員になっています。不正常であり、すぐにも欠員を補充しなければなりません。

…

異常な状態が常態化し、現状では、2022年度から自治会活動が停止しかねない事態に至っています。しかし、自治会活動が停止すると、多大な影響が出ます。それを避けるため、知恵を出し合い、できることをしていかなければなりません。その第一歩として、アンケート調査をします。

アンケートの目的は、自治会活動を停止させないため、「知恵を出し合い、できることをする」こと

アンケート (2) 問1

問1は、「自治会活動停止に先立ち、各々について3つのうち一つに○印をつけてください。」として、「自治会が無くなると、以下のようになります」と項目を挙げ、「①困る」「②困らない」「③どちらともいえない」から選ぶように要請している。

この時点では「(a)自治会を解体する」「(b)自治体を存続させる」の両方を睨んでいる。

もしも、「困らない」が多かったら、来期には、現・自治会長代行には職を辞していただく。すると、必然的に自治会は解体になる。住民が「必要ない」というなら、自治会存続は不幸な選択。「無責任だ」と言われないため、解体する根拠を作ろうとした。

もしも、「困る」が多いなら、自治会を存続させる努力を継続するつもりだった。なかには「自治会は必要ない」という人もいたので、その人に対する反論の根拠になる。また、存続させる場合は、自治会活動の負荷を軽減するため、捨てるよいもの、重点志向すべきものが、分かる。 → 結果は、「自治会をな無くしては困る」だった。

アンケート

(3) 問2(3・4・5)

これが、最も大切な問いかけになった

問2 □自治会存続に向けての協力について、3つのうち一つに○印をつけてください。←

<input type="checkbox"/>	①	自治会役員になることを検討します	問3へ
<input type="checkbox"/>	②	自治会役員にはなれないが、協力できることはあります	問4へ
<input type="checkbox"/>	③	何も協力できません	問5へ

①を選択してもらおうハードルを下げるために、二つの配慮をした

- ・ 「自治会役員になってもよい」ではなく、「自治会役員になることを検討してもよい」とした。すなわち、「検討した結果やめます」の余地を残した
- ・ 「(問2で①を選んだ方) 役員就任を検討するに当たって、条件に○を付けてください。複数選んでも結構です。」を問3に設けた。すなわち、「条件付き Yes」の余地を作った

なお、「(問2で②を選んだ方) 協力できることに○印(複数可)」を問4として設け、特に「書類づくりなら手伝える」人を拾い上げようとしたが、うまくいかなかった。

アンケート (4)

(4) 16人の自治会役員経験者に聞いてみました

「自治会役員を引き受けるのは嫌だ」という空気が強い。しかし、実際に自治会役員を経験した人には、肯定的意見が多い。

自治会役員を引き受けるかどうか迷っている方へのメッセージなども示した。

1 6人の自治会役員経験者に聞いてみました。

【人との出会いがあった】

【地域に関心をもった】

【地域とかかわる意識が変わった】

【良い経験だった】

【うれしかった・楽しかった】

【自分が成長した】

【新たに役員を引き受けるか迷っている方へのメッセージ】

<気軽に>

<引き受けてよかったと思う>

<得られるものがある>

<住みやすいまちにしよう>

【新たに役員を引き受けた方へのメッセージ】

<気軽に>

<悩まないでください>

<前向きに>

アンケート

(5) ●●町●丁目自治会だより

●●町●丁目自治会では、会報を発行したことがなかったが、アンケート結果を周知するため、「●●町●丁目自治会だより 2021年度 第1号」を発行した(2021/08/17)

自治会に関する情報を提供し、自治会に関する意識を高めていただくのが、主な狙い

結果を報告するだけでなく、「問題解消のための方針」を示した。

- ① 2022・23年度役員は、2年間で辞められることを保証する
- ② 役員定員を一人増やし六人体制として、一人当たりの負荷を減らす
- ③ 自治会役員サポート体制を整備する

これは、今後の進め方、ゴールのイメージを示すため（ここに向かって、進め！）

また、「地域にちょっと貢献」協力者募集 を行った。狙いは、二つ。

- (1) 世話役のうち二人は、100軒以上に会報を配らねばならず、負担が大きい。有料ボランティアの採用により、一人当たりの負担を50～60軒程度に低減する。
- (2) 作業的なものであれ、自治会活動に関わることにより意識を高めてほしい

アンケート

(6)アンケート問1の分析から導かれた方向

問1の分析から導かれた方向

1. 可能であれば、自治会を存続させる方向

※ 「無くなっては困ること」を実施するためには、自治会が必要。

※ 自治会役員を引き受ける人がいなかったら、自治会は存続できない。

2. 自治会活動として、安全、美化、会費徴収を重視する方向

3. 自治会活動として、慶弔、募金は廃止する方向

↓
規約改定に、一部反映
新年度予算に、一部反映

	集計（並べ替えた）			検討結果				結論（案）
	①困る a	②困らない b	③どちらともいえない c	不要	備考	必要	方針（案）	
9 出産御祝金はなくなる	5	28	15	5.80	慶弔	0.18	廃止	廃止する： 賛成派が反対派の3倍以上、かつ反対派が10人未満 その時の自治会役員に判断を委ねる： 意見が分かれ、どちらとも決めかねる（「過半数」で決めるのは、不適切）
10 敬老祝金はなくなる	5	27	14	5.40	慶弔	0.19	廃止	
11 子供の日御祝金はなくなる	5	28	15	5.20	慶弔	0.19	廃止	
8 慶弔金はなくなる	8	27	15	4.50	慶弔	0.22	廃止	
7 日赤共同募金はなくなる	7	25	14	3.57	募金	0.28	廃止	
6 年末防犯パトロールはなくなる	14	19	12	1.36		0.74	一任	
12 自治会経由で市や区からの情報は受け取れなくなる（広報誌は、各個人宅に配布される）	16	15	17	0.94		1.07	一任	
5 須磨浦通4丁目は、自治会対応の花火パトロールはできなくなる（窓口がなくなる。協力費を出せなくなる）	15	13	19	0.87		1.15	一任	
14 市や区からの要請に応じられなくなる（例えば、自治会として花火パトロールに対応できなくなる）	18	11	18	0.81		1.64	一任	
18 警察からの協力要請は、自治会が対応してくれなくなる（個人で対応する）	22	11	14	0.50		2.00	一任	
17 道路関係のトラブルは自治会が対応してくれなくなる（個人で対応する）	23	11	13	0.48		2.09	一任	
22 自治会が管理する掲示板の管理者（広報担当）がいなくなる	24	10	11	0.42		2.40	一任	
15 市や区への要望を自治会がしてくれなくなる	25	9	14	0.36		2.78	一任	
13 自治会として市や区からの支援は受けられなくなる（窓口がなくなるので）	23	8	14	0.35		2.88	一任	
21 近隣住民との関係が希薄になり、大規模震災が起きた時、お互いの協力が得られにくくなる	25	8	14	0.32	安全	3.13	重視	
19 地震などの時、自治会経由で支給品を配布できなくなる	27	7	13	0.28	安全	3.86	重視	
1 自治会費を集められなくなる	20	5	16	0.25	会費	4.00	重視	
16 ごみトラブルは自治会が対応してくれなくなる（クリーンステーション単位で対応する）	28	7	11	0.25	美化	4.00	重視	
20 地震などの災害対応の中心になってくれる人がいなくなる（各自で対応する）	28	6	14	0.21	安全	4.67	重視	
23 4丁目全体の美化にかかわる人はいなくなる	32	5	10	0.18	美化	6.40	重視	
3 自治会管理の防犯カメラははたらかなくなる（※）	35	5	7	0.14	安全	7.00	重視	
4 クリーンステーションのお世話ををする人がいなくなるかもしれない（報酬を払えなくなるので）	31	4	13	0.13	美化	7.75	重視	
2 自治会管理の街灯は点かなくなる（※）	37	3	8	0.08	安全	12.33	重視	

アンケート

(7) アンケート問2の結果とその後

問2 自治会存続に向けての協力について、3つのうち一つに○印をつけてください。
結果は、

4	①	自治会役員になることを検討します	問3へ
21	②	自治会役員にはなれないが、協力できることはあります	問4へ
17	③	何も協力できません	問5へ

方針

①の4人には、役員候補者になって欲しい

②の21人の中からも、役員候補者を見つけない

特に、「自治会役員にはなれないが、協力できることはあります」として、問4で「書類づくりなら手伝える」と回答した人

働きかけ

①の4人にを対象として、10月16日に「今後の自治会のあり方に関する詳細説明・相談会」を開催した → その後会議を重ねて、役員候補就任の内諾をいただいた

主として②の方を対象として、10月21日に「アンケートをもとに今後の自治会を考える会」を開催した。①の4人ならびに、自治会長代行が推薦した人にも案内を出した
→ うまくいかず、断念した

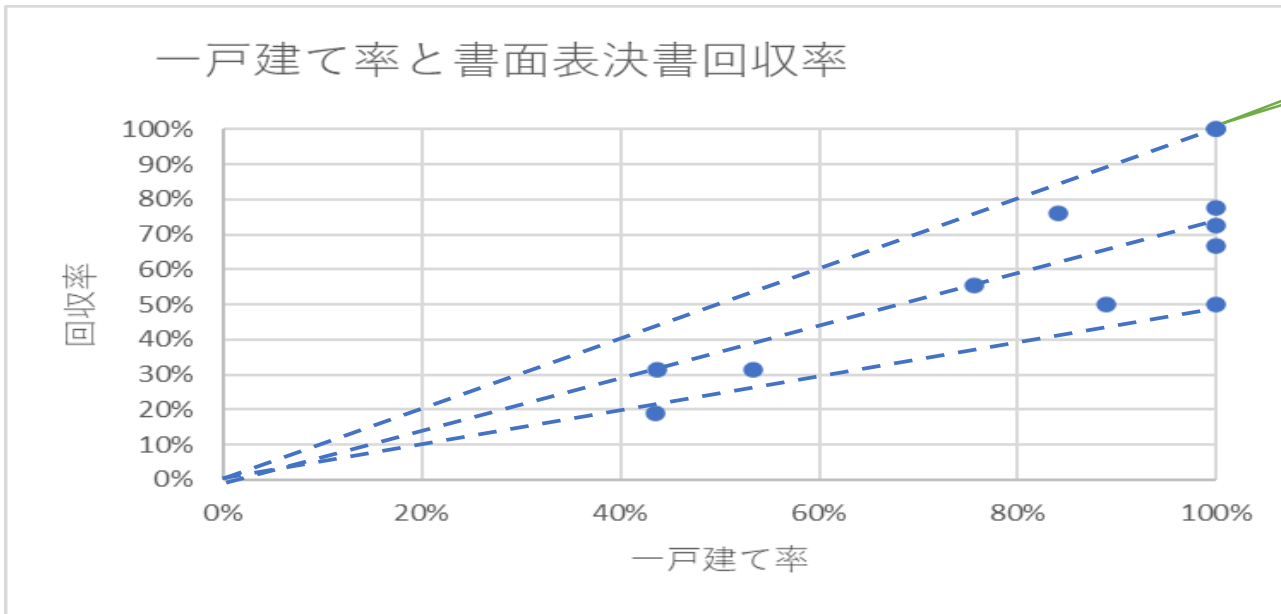
自治会役員候補者は何処にいるか

(1) 集合住宅は？

集合住宅の人は、自治会への関心が薄い（ほぼゼロ）

▲▲町▲丁目では、集合住宅からは、自治会役員が出たことがない理由として考えられるのは、
地域へのかかわりの深さが違うのではないかと
戸建ての人にとっては終の棲家が多いが、集合住宅は一時的な住まい
集合住宅には働いている人が多く、寝るために家に帰る
戸建ての人は、住居が日常生活の場になっていることが多い
なお、大型マンションでは、終の棲家の人もある
よって、集合住宅からは、自治会役員候補者は出にくい。

二つ班が重
なっている



▲▲町▲丁目では、平成3年4月はコロナのため、総会を書面とした。

1 1班あるそれぞれの書面表決書の回収率を縦軸、一戸建て率を横軸として、プロットした。相関関係が認められる。

破線は、一戸建てのみ回答するとして、その回答率（上から、100%, 75%, 50%）

自治会役員候補者は何処にいるか

(2) 高齢男性は？

かつては、リタイヤした高齢（団塊世代）男性が、自治会役員（特に会長）候補の宝庫であった。しかし、最近では、自治会役員を引き受けてくれる高齢男性は少なくなった。

高齢者男性			
かつて	最近		
リタイヤ	働いている	「働いているから自治会役員になれない」と言う。 仕事を終えたころには、「疲れ果た」と言う	当てにできなくなってきた
団塊世代	ポスト団塊世代	キャラが濃い団塊世代から、さめたしらけ世代へ。 リーダー役はいつも団塊世代が独占していた	

団塊世代が高齢者に

2015年問題	65歳に	前期高齢者	「このころは、元気いっぱいだった」
2020年問題	70歳に		
2025年問題	75歳に	後期高齢者	「最近、少し疲れてきた」

今は、このあたり

行く先は、三つ

(できるところは) 引き続き、高齢男性にお願いする

現役世代にバトンタッチ（見つける・育てる）

どちらでもなければ、自治会が消滅する

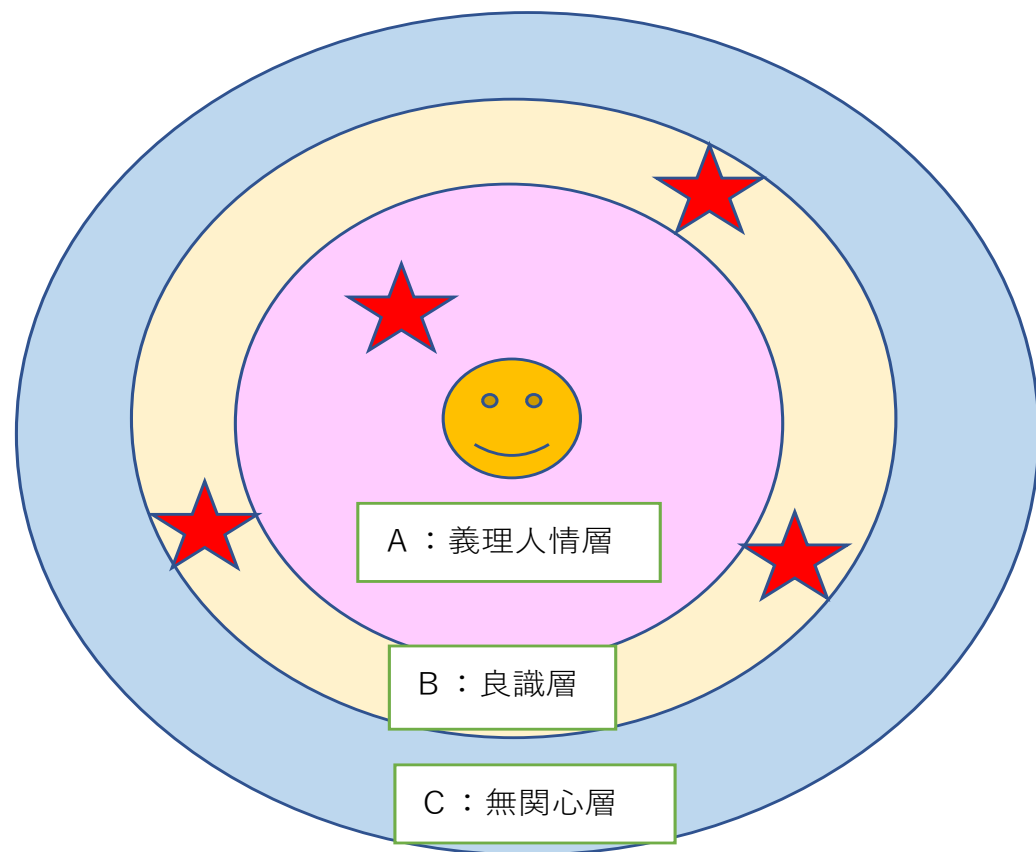
希望はある。例えば「プロボノ」

これまでの自治会の「お手本」が、これからは、「お手本」でなくなる

「俺たちがやってきたようにやれ！」は、無理
自治会が生き延びるには、
・新しい自治会の姿
・新しい体制の構築

自治会役員候補者は何処にいるか

(3) ●●町●丁目の場合(a)



アンケートに回答してくれない「C : 無関心層」には、当面、「取り付く島がない」

自治会長代行は、近所づきあいを大切にし、豊かな人脈を形成していた（「A : 義理人情層」）。彼らは、自治会運営に協力してくれた。この中から次期の役員候補を見出そうとしたが、挫折した。

A層でもない、C層でもない人たちを「B : 良識層」と呼ぶことにする。

結局、次期役員候補となってくれた人は、A層から1人、B層から3人だった。また、会長候補もB層からである。

このB層は、顔が見えにくい。アンケート実施により、人材を発掘できた。これが最大のクライマックスである。

それは、外から入ったから（義理人情に依存できない）こそ、できたのかもしれない。義理人情によらず、理詰めでアプローチした

自治会役員候補者は何処にいるか

(4) ●●町●丁目の場合(b)

【正攻法】

以前に、御池台校区連合自治会の会長さんからお話を伺ったことがある。そこでは、見事に人材を発掘している。どのようにすれば、このような素晴らしいことができるのですかと尋ねたところ、次のような説明をいただいた。

連合自治会では、単位自治会から人を出してもらって行事を行うが、終わった後、必ず「ご苦労さん会」を開きます。そこが勝負です。お酒を酌み交わしながら、将来協力してくれそうな人を探し出し、その人とじっくり話し込みます。あとは「一本釣り」です。今、協力してくれている人のほとんどは「一本釣り」で、楽しく協力しあっています。

【しかし】

今回は「よそ者」の立場からのアプローチで、信頼関係もないし、接触する機会もない

【今回のアプローチ】

今回は、手続き的には、「(1)アンケートの実施」「(2)会報による発信」「(3)説明会議の開催」「(4)フォロー会議の開催」の順番で進めた。

一貫して、自治会に関する情報を投げかけ、自治会に関する理解と関心を深め、自治会の必要性をわかっていたと意識していた。どの程度成功したかわからないが、とにかくこれを進めないと、単なる泣き落としでは進まない。

(1)(2)はこちらの努力でできるが、(3)(4)は会議を開催しても参加してもらわないと進められない。今回は「たまたま」うまくいった。この方法がいつでも成功するとは限らない

【今後の課題】（次期役員候補の発掘）

「行事」「面倒見」「総会開催」「会報発行」がキーになるだろう。これまでは「面倒見」だけは良かった。いずれも手間暇がかかる。どこまでできるか？「行事」は無理だろう

自治会役員候補者は何処にいるか

(5) ▲▲町▲丁目の場合(a)

▲▲町▲丁目の自治会役員の任期は2年で、役員6人は毎回総入れ替えになってきた。
役員6人の内訳は大体は男女混合で、伝統的には男性が自治会長に就任していた。

代	年度	会長	副会長	広報	会計	書記	会計監査
5	H16-	男性	女性	女性	女性	男性	女性
6	H18-	男性	女性	女性	女性	男性	女性
7	H20-	男性	男性	男性	女性	女性	女性
8	H22-	男性	男性	女性	女性	女性	男性
9	H24-	女性	女性	女性	女性	女性	女性
10	H26-	男性	女性	男性	女性	女性	女性
11	H28-	男性	男性	女性	女性	女性	女性
12	H30-	男性	男性	女性	女性	男性	女性
13	R2-	女性	女性	女性	女性	女性	女性
14	R4-	女性	女性	女性	女性	女性	女性

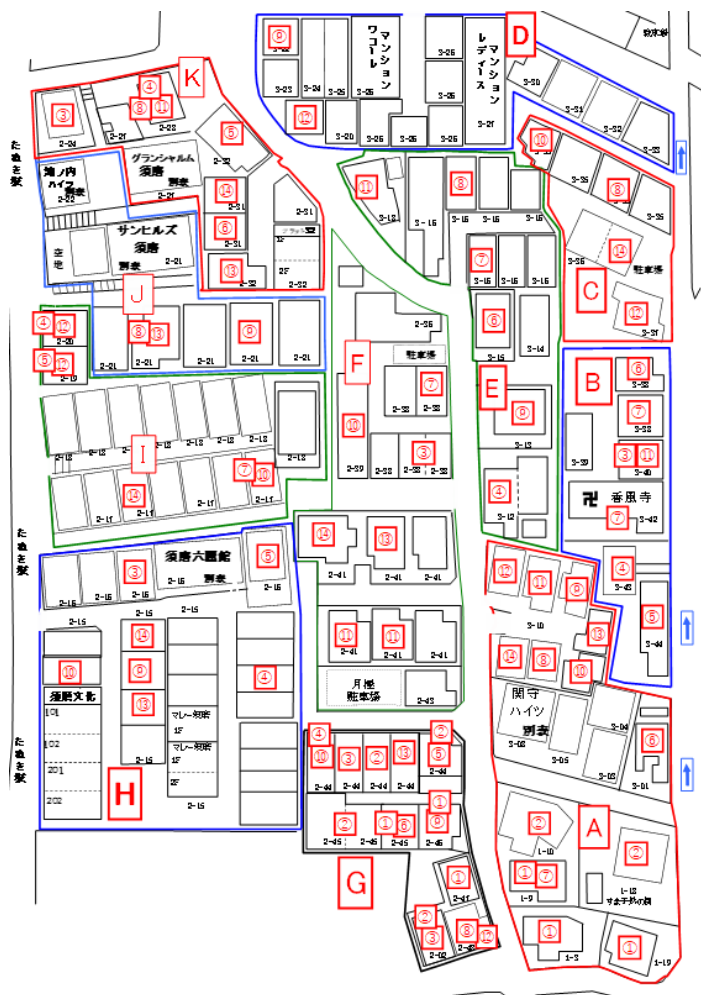
■ 男性
 ■ 女性

第9代が全員女性、その後3代は男性会長が続いたが、現役員と新役員は全員女性となった。しかも子育て世代の女性（子育てママ）が多い。

もともと人数的には女性が多かったが、「自治会（長）は男という神話」は、はっきり、終わった。意図して女性を選んだのではなく、結果として「引き受けてくれたのが全員女性」だった。

自治会役員候補者は何処にいるか → 子育てママが引き受けてくれ始めた

自治会役員候補者は何処にいるか (6) ▲▲町▲丁目の場合(b)



▲▲町▲丁目の自治会役員の任期は2年で、役員6人は毎回総入れ替えになってきた(前述)。阪神・淡路大震災(平成7年)後の平成8年に自治会として発足し、この(平成4年)4月には、14代目の自治会がスタートする。

その結果、述べ84(=6*14)の自治会経験世帯を輩出してきた。2回引き受けた世帯、転出した世帯もあり、実質、現在、68世帯が自治会役員を経験している。全世帯の45%に当たる。

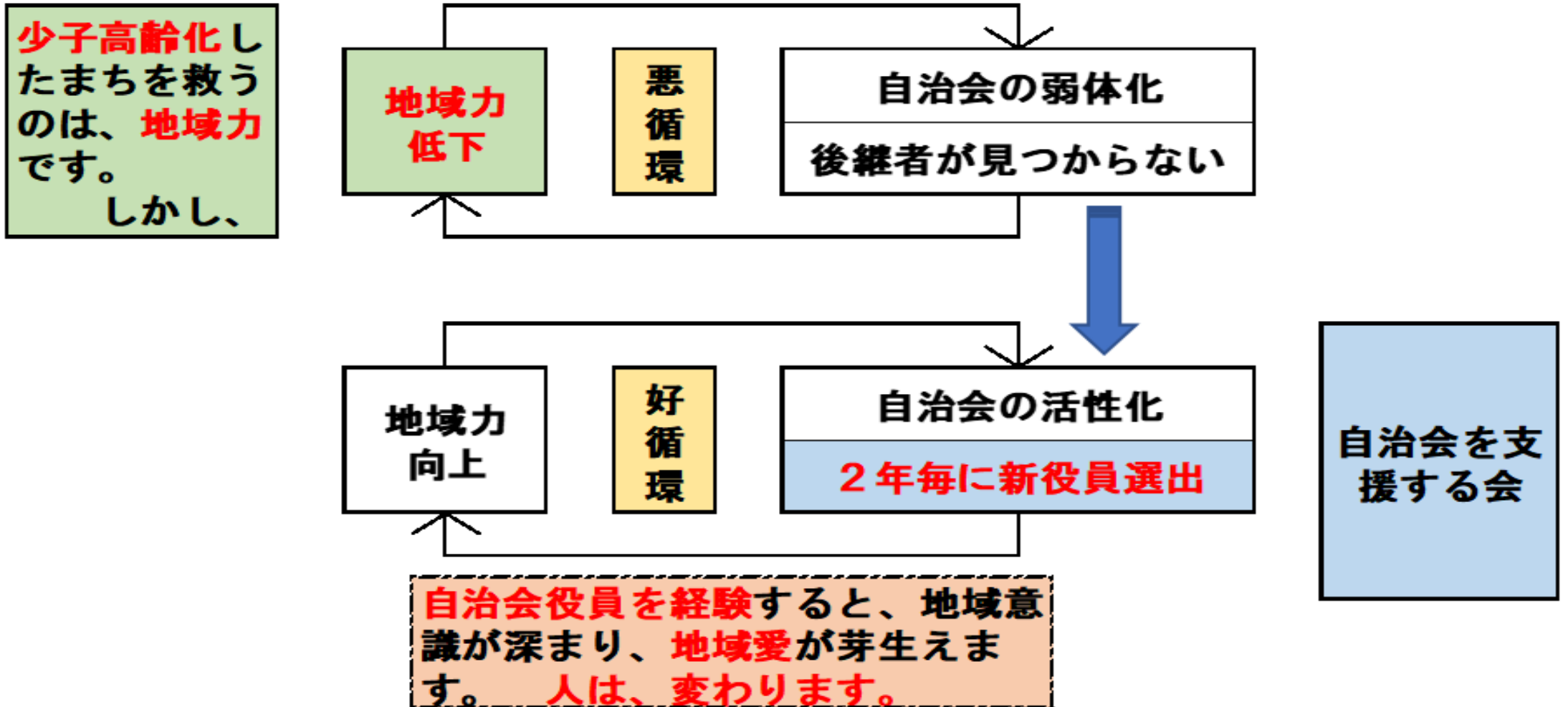
集合住宅では、役員を引き受けた人はいない。一戸建ては112世帯であり、68世帯はその60%にあたり、自治会役員候補者は「底をついた」

「間をあけて2回は引き受けるが、3回は引き受けない」という不文律が頑なに守られている。

子育てママが、その隙間を埋めてくれ始めた。同じ年頃の子を持つママは、横のつながりをもって、ママつながりで役員になってくれはじめた。意図したわけではなく、もがいていたらそうになった。新しい姿に、様変わりしつつある。

これもすぐに底をつく。子育てパパが入ってくるかが、自治会長期存続のキーになるだろう。

自治会を支援する会・西須磨の考え方 (1) 地域力向上の好循環へ



自治会を支援する会・西須磨の考え方 (2) しなくてよい事・したい事

